

キャンパスモール整備計画コンペ 審査結果について

「キャンパスモール整備計画コンペ」には29点のご応募をいただきました。

12月9日に1次審査（書類審査）、12月23日に2次審査（1次審査通過提案によるプレゼン審査）が行われ、以下のとおり最優秀賞、優秀賞及び入選が決定いたしました。

最優秀賞

タイトル：ひと・こと・ときを編む並木道

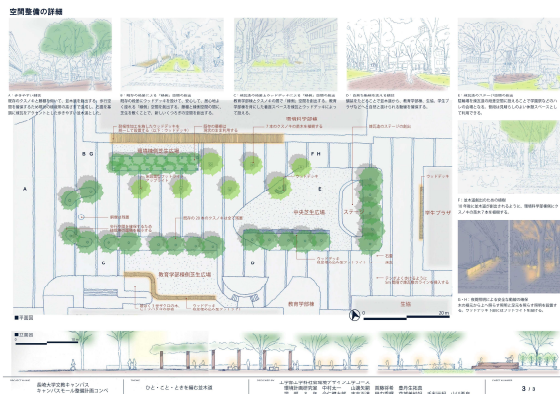
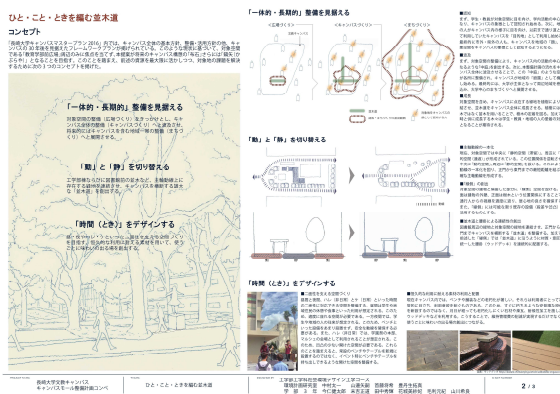
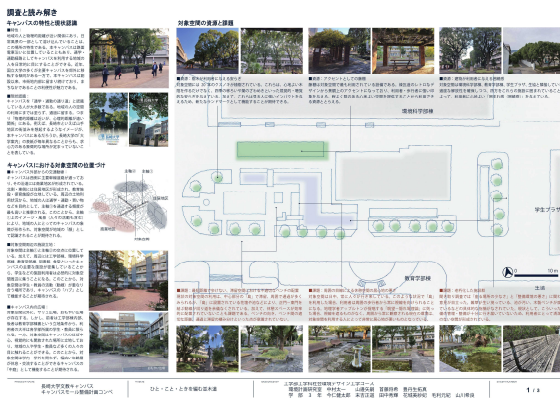
提案者：中村太一（代表者・工学研究科）、山邊矢嗣（工学研究科）、
首藤将希（工学部）、豊丹生拓真（工学部）、今仁健太郎（工学部）、
田中秀輝（工学部）、末吉正道（工学部）、花城美紗妃（工学部）、
毛利元紀（工学部）、山川希良（工学部）

【審査員講評】

今回の計画対象となっているキャンパスモールを「並木道」として整備し、時間をかけ、長崎大学から周辺地域まで波及させることを提案した作品。

綿密な現状分析の下、現状の工作物や植栽等を有効に活用しつつ、新設するウッドデッキのスペース、ステージや広場・緑地を効果的に用い、そこに居る人の行動により自然と動線を変え、「並木道」の周辺の「人の溜まり」が交流や賑わいを創出するよう配置が工夫されている。

緑あふれる「並木道」の整備は、プラネタリーヘルスへの貢献を目指す長崎大学のまさに象徴となりうるスペースであり、素晴らしい提案である。



優秀賞

タイトル : いまを超えて

提案者 : 赤山紗也果 (卒業生)



【審査員講評】

過去から未来への時間の流れを風が流れるイメージで表現し、曲線のデザインを用いた印象的な空間整備を提案した作品。

曲線で構成された工作物と植栽の間に動線が配置され、人々が意図せずアートのある憩いの空間に誘われる演出は評価できる。また、既存と同種の植栽を整備したり、地面の舗装に長崎大学の歴史を表示したり、過去の継承にも配慮されている点も評価できる。

タイトル : 交流にグラデーションを持つ空間 (時・空間・場所を巡る広場)

提案者 : 松浦寛樹 (代表者・工学部)、 林健太 (工学部)、
山口勇也 (工学部)、宮崎翔太 (工学部)、今里亘希 (工学部)、
神武克圭 (工学部)、北川裕子 (工学部)



【審査員講評】

「緑あふれる空間」「繋がり」「開放感」「一体感」をコンセプトに据え、開放的でパブリックな交流を促すゾーンと、閉鎖的で小人数のプライベートな交流を促すゾーンに分けて整備することを提案する作品。

計画にあたり、独自に学生アンケート等を行うなど、的確に学生のニーズの汲み取り、それを体現するスペースを提案している点は評価できる。また、現状の工作物や植栽の状態をベースに、最小限の整備でも効果が出るよう上手くまとめている点も評価できる。

入選

タイトル : 真ん中のない庭

提案者 : 北村知聖 (工学研究科)



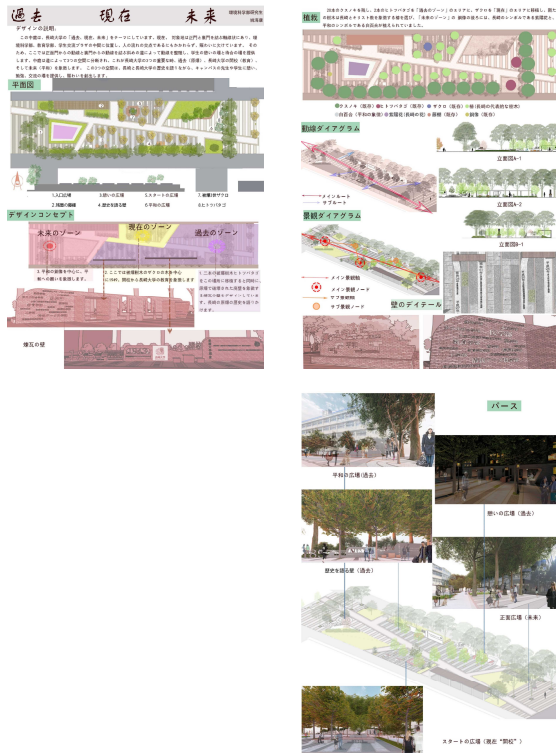
【審査員講評】

「眺望-隠れ場理論」を参考に、居心地の良い空間整備を提案する作品。

既存の工作物・樹木を利用しつつ、テーブルや椅子を新設し、適度な段差をくわえることで、人々が寛げる「庭」として整備するもので面白い試みである。さらに、計画対象地の現状の使われ方が調査され、整備コストの低減や過去からの連続性を踏まえてまとめられている点は評価できる。

タイトル : 過去 現在 未来

提案者 : 姚海康 (環境科学部 (研究生))



【審査員講評】

長崎大学の歴史と、未来への歩みを表現する空間の整備を提案する作品。

計画対象地に新たな通路を設け、通路により「過去、現在、未来」というゾーンに分ける発想は、他の提案にはない興味深い点。さらに新設するレンガの壁や記念樹等の植栽により、大学の歴史や平和への祈りを表現する点は評価できる。